

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆COP26で石炭削減合意、発電の3割担う日本に重い課題

・第26回国連気候変動枠組み条約締約国会議(COP26)の合意文書に石炭火力発電所の段階的な削減の方向性が明記され、国際公約となった。電気の3割を石炭火力に頼る日本は古くて効率の悪い発電所を減らすが、2030年度も電気の2割弱をまかなう計画。50年に排出量の実質ゼロを掲げており、削減のペースをあげていくといった計画の策定が求められる。

◆経済対策40兆円に膨張 成長投資は乏しく

・政府が19日にも閣議決定する経済対策の財政支出が40兆円を超える見通しとなった。18歳以下への給付金などの実施が決まり、対策規模を膨らませた。選挙前に自民・公明両党が掲げた公約を折衷したばらまき色の強い政策が柱となり、成長に向けた投資や工夫は乏しい。米欧諸国がポストコロナの成長戦略を加速するなか、日本は周回遅れとなる恐れがある。

◆イベント人数上限撤廃へ 政府案、宣言下も条件付きで

・政府は新型コロナウイルス対策をめぐり行動制限を緩和する案をまとめた。大規模イベントは主催者による感染防止安全計画の策定を条件に参加人数の上限を撤廃する。ワクチン接種や検査の陰性の証明を組み合わせた「ワクチン・検査パッケージ」を活用すれば、緊急事態宣言の発令下でも定員100%まで認める。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆ノーリツ最終黒字55億円 21年12月期下方修正

・給湯器大手のノーリツは、2021年12月期の連結最終損益が55億円の黒字(前期は30億円の赤字)になりそうだと発表。これまでの予想に21億円届かない。給湯器本体に使う半導体や樹脂などの不足で減産を迫られ、売上高も前期比3%減の1780億円と従来予想の1910億円から下方修正。営業利益は前期比37%減の30億円となる見通し。予想から一転減益。

◆10月の住宅展示場来場者、3カ月ぶり増加

・住宅展示場協議会と住宅生産振興財団(同)が11月11日発表した10月の住宅展示場の来場者組数は、対前年同月比プラス1.75%の31万4797組となり、3カ月ぶりの来場増となった。エリア別では、関東、信越・北陸、近畿、中国・四国、九州・沖縄の5エリアが対前年同月比来場プラス。今期累計は、200万7159組となり、昨年累計比でプラス16.46%の来場増となった。

◆4～9月の非鉄4社、全社増収増益 自動車向け堅調

・非鉄金属大手4社の2021年4～9月期連結決算が12日出そろい、全社が増収増益となった。新型コロナウイルス禍からの経済回復などを背景に、生産する銅などの金属価格が上昇した。自動車向け材料の販売も堅調だった。金属価格の上昇で製錬事業が好調なほか、廃棄物処理事業や太陽光パネル向けなどの電子材料が堅調に推移する。

《 注目商品 》

■アイホン、見やすい7型ワイドモニター搭載「セキュリティテレビドアホン 1・1」

・広い視野を確保したタッチパネル式7型ワイドモニター搭載で、録画機能も充実。操作ボタンも大きく、直感的に操作できる。防犯・防災機能を兼ね備えており、火災感知器やガス感知器などと連動させると、ドアホンも警報を鳴らすようになる。既設の住戸完結型インターホンからの更新、リフォームにも。



■LIXIL、ハイブリッド窓「サーモスII-H」「サーモスL」

・アルミと樹脂のハイブリッド窓の主力2製品をリニューアル。縦すべり出し窓、横すべり出し窓などの装飾窓を中心に大幅刷新した。オペレータハンドル仕様は断熱性と気密性を向上させたほか、快適な操作性と美しいデザインを両立。網戸は取り外しやすさを追求し、虫イヤネットもラインナップした。



■パナソニック、触らずに照明器具ON/OFF「アドバンスシリーズ 非接触スイッチ」

・手をかざして触らずに照明器具のON/OFFができるスイッチ「非接触スイッチ」を3月21日に発売。非接触スイッチを設置する事により、衛生面に配慮した生活空間となる。操作部には、新規開発した光学プリズムレンズを採用。レンズ部が発光し、暗い中でもスイッチの位置がすぐに分かる。

